

教育委員会だより

平成30年度 全国学力・学習状況調査 の結果について

今年4月に町内の小学校6年生(33名)、中学校3年生(42名)を対象に行われた全国学力・学習状況調査の概要をお知らせします。

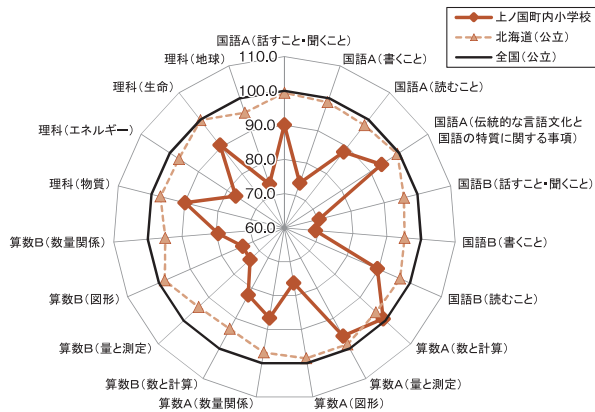
学力調査は小学校6年生の国語・算数・理科、中学校3年生の国語・数学・理科の各3教科で、国語と算数はそれぞれA問題(基礎)・B問題(応用)に分けて行われました。

1. 調査の目的について

本調査は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを継続することで、検証改善サイクルを確立することを目的としています。本調査の結果は児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面である事に留意が必要です。

2. 調査結果の概要について

小学生



「小学生/国語」

- ・A問題では、「書くこと」が、全体的に全国、全道を大きく下回っています。
- ・B問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域について全国、全道を大きく下回っています。

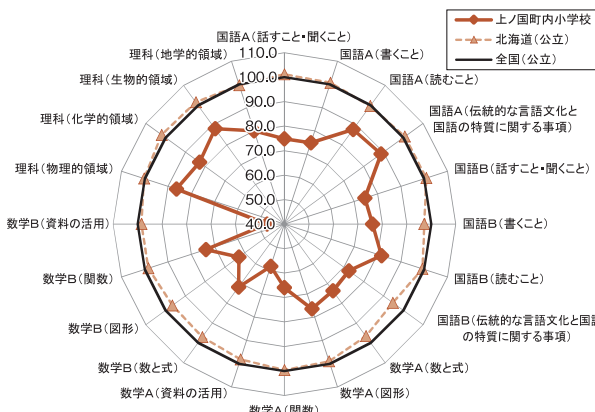
「小学生/算数」

- ・A問題では、「数と計算」「量と測定」の領域で全国、全道と並んでいますが、「図形」では、全国、全道を大きく下回っています。
- ・B問題でも、「量と測定」「図形」が全国・全道を大きく下回っている状況です。・昨年に引き続き、「図形」問題に課題が見られます。

「小学校/理科」

- ・「物質」「生命」に比べ「エネルギー」「地球」の領域が全国・全道を若干、大きく下回っています。

中学生



「中学生/国語」

- ・A問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国、全道を大きく下回っている傾向にあります。
- ・B問題でも、全ての領域で全国、全道を大きく下回っています。
- ・特に、会話場面を想定し展開を意識した文章の読み解きに課題が見られます。

「中学生/数学」

- ・A問題では、全体的に全国・全道を下回っています。特に「関数」「資料の活用」の領域での差が全国、全道とも大きい状況です。
- ・B問題でも、全国・全道を大きく下回っています。傾向としては与えられた情報や式を用いて数学的な表現や説明をすることに課題が見られます。

「中学校/理科」

- ・「科学的領域」「地学的領域」が全国・全道を大きく下回っています。

3. 成果と課題について

(1) 成果

- ・小学校では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対し、全国・全道より2割程度多い7割の子ども達が「当てはまる」と回答していることから、生徒と先生が良好な関係が築かれていると考えられます。また、普段から積極的に地域行事に参加している児童も多く、地域住民も学校行事には協力的であり、児童が日常的に社会参加に対する意識が醸成されていると思われます。
- ・中学校でも、地域行事へ参加している生徒が多く、授業でも地域住民と接する機会が多い。また、社会に関する情報の入手はテレビやインターネットがほとんどで、毎日新聞を読んでいる生徒は0人であったことなど、活字離れが顕著に見られました。

(2) 課題

- ・小学校では、家庭で学校の宿題をやっている児童が10割となっています。しかし、1日当たりの学習時間は30分以上2時間以下が全国より2割以上多い9割弱となっています。しかし、2時間以上の場合では全国に比べ3分の1以下の1割となっていることから、家庭での学習の時間や内容に課題が見られます。また、読書の時間も全国、全道と比べ若干少ないことから、帰宅後の時間の使い方に課題が見られます。
- ・中学校では、小学校と同じく家庭で宿題している生徒が多いが、30分以上1時間未満が全国平均の2倍の3割強、1時間以上2時間未満が全国平均の3割強に対し5割、学習時間が2時間以上では全国・全道平均と比較し3分の1以下の1割にも満たないことから、家庭での学習方法と併せ帰宅後の時間の使い方に課題が見られます。

4. 学力向上の取組について

本調査の結果に基づき、様々な角度から分析を行い課題を解消するため、各学校では、子ども達の基礎学力の定着を目指し、授業改善に向け校内研修や各種研修を行い教職員一人ひとりのスキルの向上及び指導方法の工夫改善、定数加配教員等による有効的なチームティーチングや少人数指導等を行い、児童生徒の学力アップに努めます。

また、子ども達のご家庭での学習習慣の確立と学習方法の工夫が急務とされています。さらに、テレビゲームやスマートフォンゲームなどの利用時間も含め、帰宅後の家庭での過ごし方、時間の使い方について、保護者様のご理解とご協力をお願いいたします。

